

自己評価報告書

平成 23年 4月 15日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20390560

研究課題名（和文）高度生殖医療を受けた妊婦の母親役割獲得を促す看護介入プログラムの開発と実用化

研究課題名（英文）Research on the development and utility of the nursing intervention program to promote maternal role attainment in pregnant women who have undergone artificial reproductive treatment

研究代表者

森 恵美（MORI EMI）

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：10230062

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：高度生殖医療、母親役割獲得、妊婦、看護介入

1. 研究計画の概要

研究目的は、1. 高度生殖医療（ART：Artificial Reproductive Treatment）による妊娠をした女性の母親役割獲得過程の予期的段階を円滑に促す看護介入プログラムを考案・開発し、2. 開発した看護介入プログラムを実施するための研修を行い、その方法が習得できるように工夫して実施し、その評価を行うことである。そして、3. 上記の研修を受けた看護職者と ART 治療後妊娠の妊婦について、看護介入場面と妊娠期の母親役割獲得状況を把握し、開発した看護介入プログラムの効果を検証し、それにより、有効な看護介入プログラムとして提示することである。そこで、以下の4つの研究を行う。【研究1】看護介入プログラムの開発のための基礎的研究、【研究2】開発した看護介入プログラムを展開するための看護研修の実施とその評価研究、【研究3】本看護介入プログラムの効果を実証する研究、【研究4】本看護介入プログラムの改良と実用化に関する研究である。

2. 研究の進捗状況

【研究1】看護介入プログラムの開発のための基礎的研究：ARTによる妊娠をした女性の母親役割獲得過程の予期的段階を円滑に促す看護介入プログラムを先行研究の2次分析と統合により考案し、開発することができた。その研究成果を日本母性看護学会誌に投稿し、原著論文で採用された。また、看護介入プログラムで使用する「マタニティポートフォリオ（MP と略す）」を独自に開発し、名称については商標登録を行った。この開発につ

いてはソウルで行われた 14th East Asian Forum of Nursing Scholars で発表した。

【研究2】開発した看護介入プログラムを展開するための看護研修の実施とその評価研究：開発した看護介入プログラムを展開するための看護研修会は2回1クール（1回目と2回目では約1ヶ月間をおいて1日ずつ開催し合計2日間の研修プログラム）で行い、合計3クールにおいてデータ収集をした。研究対象者は合計で12名の看護師、助産師であった。ビジュアルアナログスケールの結果では「看護介入プログラムの概要は理解できた」「看護介入を実践する上でMPの使い方が理解できた」に1回目研修会終了後と2回目研修会終了後では有意差がみられた。フォーカスグループインタビューにおいては、「複数回ロールプレイを行ったことで不妊治療後妊婦の心理面に対する理解がより深まった」「不妊治療後妊婦への看護の必要性がさらに理解できた」「研修会の合間の練習で理解したつもりだったが、2回目の研修会で十分に実践できていないことに気づいた」等の意見があった。これらの結果よりロールプレイを行い体験的に技術や知識を習得し、2回の研修会の間に介入プログラムを実践し技術の質を高める内容が効果的であったと考察している。この看護研修の評価研究の一部を第30回日本看護科学学会学術集会で発表した。現在、フォーカスグループインタビューの質的データをKJ法（質的統合法）にて分析し投稿準備中である。

【研究3】本看護介入プログラムの効果を実証する研究：本看護介入プログラムの効果を実証する研究は、対照群44名からデータ収集

をすることができ、開発した看護介入プログラムに基づく看護を提供する看護介入群については15名の妊娠中期（第2回目）研究データ収集が終了している。対照群、介入群のデータ収集できた研究データのコーディングとデータ分析を行っている。

【研究4】本看護介入プログラムの改良と実用化に関する研究：【研究3】が終了してから着手して、本看護介入プログラムの改良と実用化のためのデータ収集をする計画である。

3. 現在までの達成度

②当初の計画どおりに進展していたが、東日本大震災等の影響があり、3月中旬以降中断した。

(理由)

【研究1】と【研究2】は順次予定通り進展して、それぞれ成果を公表することができたため、計画どおり進展したとした。しかしながら、【研究3】の看護介入群の研究対象者の募集が予定より進んでいない。これは、本研修会を受けて本看護介入プログラムを実践する看護職者が多忙を極め、妊婦外来において本看護介入プログラム実施に割く時間がもてない状況になったためである。また、分析のコンサルテーションを受けていた3月11日に東北地方太平洋沖地震があり、分析が中断してしまった。その後、計画停電とガソリン不足により共同研究者等が分析のために集合することができず研究会議が開催できないまま年度末となった。

4. 今後の研究の推進方策

研究者が4月より研究協力施設に入り、研究対象者を募集・依頼を行い、看護介入者として本看護介入プログラム実施することで看護介入群の数を増加させる。介入群、25名確保を目標として、データ収集し、【研究3】の効果検証研究の成果を産出する。2011年9月以降に、看護介入をした看護実践者に対して、改良と実用化のための聞き取り調査を行い、研究データを収集し分析しまとめる。また、現在少しずつ復興し計画停電もなくなったので、研究会議を開き進める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 森恵美、坂上明子、前原邦江、小澤治美、森田亜希子、前川智子、高度生殖医療後の妊婦の母親役割獲得過程を促す看護介入プログラムの開発、日本母性看護学

会誌、11巻(1)、19-26、2011(査読有)

[学会発表] (計3件)

- ① Tomoko Maekawa, Emi Mori, Hiroko Iwata, Kunie Maehara, Akiko Sakajo, Harumi Ozawa, Akiko Morita: Developing the Maternity Portfolio for Pregnant Women after the Artificial Reproductive Treatment to Promote Maternal Role Attainment, 14th East Asian Forum of Nursing Scholars, 389, Seoul Olympic Parktel, Seoul, Korea, 2011.2.12 (査読有)
- ② 森恵美、岩田裕子、前川智子、小澤治美、森田亜希子、坂上明子: 高度生殖医療後の妊婦の母親役割獲得を促す看護介入研修会の評価、第30回日本看護科学学会学術集会、2010年12月(査読有)
- ③ 森恵美、高度生殖医療技術によって妊娠した女性に対する看護、第11回日本母性看護学会学術集会、2009年6月(査読有)

[産業財産権]

○取得状況 (計1件)

名称: マタニティポートフォリオ
MaternityPortfolio

発明者: 森恵美

権利者: 森恵美

種類: 商標登録

番号: 5360161

取得年月日: 2010年10月15日

国内外の別: 国内

[その他]

特になし